



B - S T Y L E

VOL.12

Winter season

《 暮らし方のコンセプトメッセージ 》

Message from harmony-life

Breeze.....四季のうつりかわりを感じる風の音、風の温度、風の道。  
 Breath.....心も体も深呼吸できる健康的な場所、リラックスの時間。  
 Beauty.....日常の中で触れ、愛おしみ、感性を磨く不変の美。  
 Built-in.....機能性と暮らしやすさを考えたオーダーメイドの設備。

あけましておめでとうございます。  
 いよいよ新しい年が始まりました。昨年はイラク戦争やらSARSやらで世界的に大変な一年でした。「いよいよ世界が変わりだしたな...」と実感できる一年だったような気がします。一方そんな慌しい中で対極的な「スローライフ」という言葉が流行し、「スローライフ」という暮らし方がヨーロッパを中心に広がり始めたのも面白い現象です。このスローライフというのはまさにハーモニーライフが提唱する暮らし方であり、私達の考え方が間違っていたと確信できた一年でもありません。

そんな中でこの『B S T Y L E』も季刊誌として秋にVOL. 12を発行する予定でしたが「アツ！」という間に秋が終わって気がつけば冬になっていました。毎回この『B S T Y L E』を楽しみにしていただいている読者のみなさん、ごめんなさい...そして、お待たせしました！というわけで、半年間何をしていたのかという特別にサボっていた訳ではありません。実は新ネタを探しに全国行脚していたのです...というのは冗談ですが、まんざらウソでもありません。これからの暮らし方のキーワード、21世紀のトレンドを自分の五感で感じるべく、半年間いろんなところへ出かけ、いろんな人と出会い、いろんな話を聞いてきました。そして感じたキーワードをいくつかご紹介します。

一つは前述した『スローライフ』です。その他にも『自然エネルギー』、『差別化から独自化』、『人並みから自分並み』、『競争から共生』...などがありますが、紙面の都合で2つだけご紹介します。スローライフとはファーストフードに対抗してイタリアで始まったスローフード運動というのが始まりで、安くて早くて手軽でどこでもいっつも同じ味というファーストフードが世界中に広まれば、地域の文化や伝統、自然の恵みへの感謝や人間としての本質まで失われてしまうという考えから興った運動で、スローライフはこうした考え方を暮らし方そのものに反映させようというものです。簡単に言えば「アナログで暮らしましょ」ということで早い話が「ゆっくり暮らしよ」「人間らしく暮らしましょ」ということです。デジタル化と合理化、競争とエゴで疲れ果てた結果生まれたライフスタイルのような気がします。

あけましておめでとうございます

そしてもう一つの今年のキーワードは『自然エネルギー』です。自然エネルギーには太陽・地熱・風力・水力・バイオマス(生物体を原料とするエネルギー)・氷雪(寒冷地での積雪)などがあり、太陽や風力は既に大手企業により発電システムとして実用化されています。その中でも今年注目したいのがバイオマスと氷雪です。特にバイオマスは宮津匠の会や弥栄町の工務店グループでの木質廃材リサイクル事業としての取組みや、ヒマワリからの燃料油抽出等急速に地域循環型の運動として地元丹後でも動き出しています。何よりも「自分達の出すゴミは自分達の手でエネルギーに変える」という考え方がいいと思いませんか? そうしてできた再生薪を薪ストーブで燃やして暖をとるなんてスローライフそのものだと思います。又、氷雪に関しても北海道の美瑛市という小さな町で除雪後の雪処分困る地域住民の知恵から生まれました。「地域で除雪した雪を地域で貯蔵し夏の冷房として利用する」という雪冷房システムとして実用化されています。



Slow Life



『スローライフ』と『自然エネルギー』はどちらも地球との共生・自然との調和【HARMONY】を大切にした暮らし方【LIFE】であり、ハーモニーライフにぴったりだと思いませんか?

実はスローライフの発祥の地であるイタリア的感性はハーモニーライフの得意とするところですし、全国各地に私達と同じような考え方をもち「空間創りのプロ達」のネットワークも構築できそうです。又、バイオマスや北海道の雪冷房もこの半年間でものすごく深く関わっていることとして、これからも色々な情報を読者の方に発信できると思います。

なんかカタクイ話になりましたが、新年の挨拶ということで襟を正して2004年のハーモニーライフなキーワード&近況?を報告させていただきます。あらためまして...

新年あけましておめでとうございます

今年もよろしくお願ひいたします

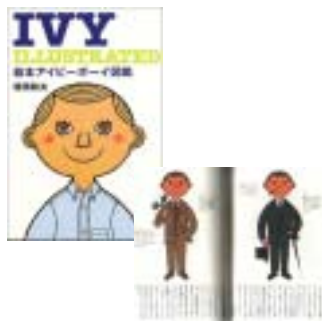
ハーモニーライフ スタッフ一同

東京通信 VOL.12

倉野 路凡(くらのろはん)

『アイビーブーム再び?』

アイビー世代に朗報! イラストレーターの穂積和夫さんが描いた『絵本アイビーボーイ図鑑』が発売されたのが1980年のこと。なんと23年ぶりに出版社を変えて発売された! 愛育社の『絵本アイビーボーイ図鑑』だ。内容もそのまま、当時買いそこねた諸兄には有り難いお話。内容はいまでもとっても新鮮で古さをまったく感じさせない。たとえば載っているドンキーコートにしても、現在VANが復刻しているし、アランセーターやツイードジャケットも最近流行っている。さて、東京でいま流行っているのはやっぱりニットキャップかなあ。男女問わずに若いコはかぶっているけど、とくに女のコが目立ちますね。それもやっぱり80年くらいに流行っていたアイビーやブレックビーを彷彿させるもの。あのボンボリがてっぺんに付いた手編み風のニットキャップで、ピーコートやダツフルコートに合わせている。それと素材でいえばコーデュロイとツイード。そういった素朴なものが都会で流行っているから不思議だ。女のコの足元は恒例のブーツか、コンバースのスニーカー。80年代に注目されたファッションアイテムが注目されているということですかね。



絵本アイビーボーイ図鑑



ニットキャップ(ボンボリ付)

倉野路凡(くらのろはん)

【ファッションライター、コラムニスト】

1965年生まれ。宮津出身。モノマガジン、東京ウォーカー、週刊SPA!、ウォッチアゴー(節約時計術/連載)、MEMO 男の部屋(ろはんの小引出し/連載)などライターとして活躍。